

ニュースレター発送ボランティアに参加して

2010/08/08

桑本巖

初めて伺ったアジア文化会館を、何枚もの「←101教室はこちら」の張り紙に沿って歩いていくと、まさしく101教室がありました。何か最後にオチがあるのかと期待しておりましたが、教室に足を踏み入ると、すでに10人ぐらいの方々が黙々とニュースレターの作成を行っており、時間ぴったりに来た自分を反省。

受付にて名前を伝えると、さっそく会員の方から作業の指示を受け、宛名ラベルのチェックから開始しました。会の方のご指示が、とてもシステマティックで、とても段取り上手だなと実感しつつ、宛名チェックが終わると、今度は、自己紹介タイムです。自分の名前や、今興味のあるものなど、今回ボランティアに参加された方々のプロフィールを順番に発表していくものでした。作業途中におしゃべりはできませんので、この時間はどんな方が一緒に作業を行っているのかわかり、とても有意義に思えます。ただ驚いたのは、その年齢の若さです。たぶん下は15歳ぐらいから、上は50近い方（自分か?）まで、幅広い年齢層でした。他のボランティアの会にも参加しているのですが、そこは平均年齢60歳以上の会ですので、このボランティア活動で一番感動したのは、参加されている方々の若さです。日本の未来は明るい!と単純に嬉しくなりました。



さて、自己紹介の時間が終わると、私にとって一番大変な、と同時に予期していない作業がありました。

「では、手書きで挨拶文を作成してください。」

と、会員の方より指示があり、何のことかと思えば、手で字を書く作業でした。このニュースレターを郵送で受け取られた方はおわかりだと思いますが、すべて手書きの文面の挨拶状になっています。私の手書きは、かなり汚くて、かつ書くのが遅いため、ちょっとご辞退しようかと躊躇しましたが、そんな雰囲気ではないので、とりあえず書いてみました。普段パソコンが手放せませんので、たぶん、いつもの1年分の手書きをしたと思います。そういった訳で、私の汚い手書きの文面をお読みの方、大変申し訳なく思っております。でも思いを込めて書き上げましたので、どうぞご勘弁下さい。

最後になりますが、今回のボランティアに参加して、手作りの良さを再発見した次第です。また、これからも多くの人たちが、カンボジア並びに諸外国の子供達の苦況を理解し、日韓アジア基金の活動に参加されることを願っております。

